

令和2年2月27日
会議室 15:30～17:00

第3回学校運営協議会 議事録

1. 校長挨拶

新型コロナウイルスの対応に苦慮している。3月5～7日に予定していた英語合宿を中止にせざるを得なくなった。

創立100周年の事前事業として電子黒板を全教室に導入し、授業で活用している。ただ、新しいHPの構築については予定より大幅に遅れている。

2. 委員紹介

教頭より委員の紹介。

大塚会長より開会挨拶。

3. 今年度の取組みについて

(1) 学校経営計画及び学校評価について

- ・授業についての生徒の肯定的評価が昨年84%から本年度80%へ、評価については91%から89%へと、若干減少したものの高い評価であった。
- ・創立100周年の事前事業として電子黒板機能付きプロジェクターを全教室に導入し、92%の生徒が授業で活用されていることに満足していると評価している。
- ・英検2級は受験生の56%、準2級は78%の合格者。
- ・「困ったことに真剣に対応してくれる」は90%から87%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」は83%から77%で、取り組みに変化はないものの若干減少した。昨年度と回答する生徒が違ふということもあるのかもしれない。
- ・人権教育については、事前学習を踏まえた映画「めぐみ」の視聴、人権HRの充実、「部落問題」等の教員研修の実施、「就職問題」等の若手の先生へのレクチャーも含めて、しっかりとした取り組みを行っている。生徒も人権について学ぶ機会があることを95%評価している。
- ・新入生の部活動への加入率は97.9%。
- ・学校の施設・設備の満足度は生徒66%、保護者56%と大変低いのが、学校独自では如何ともし難い問題であるが、少しでも改善できるよう取り組んでいく。

(2) 国際文化科の取り組み

TOEFLの授業では、水曜7限(90分)、ティームティーチングで年間20回実施。チャレンジテストにも取り組んできたが、学校のコンピューターが不調で来年度からは実施は難しいと考えている。1,2年全員がGTECを受検。大学入試が大きく変わるが、生徒の英語力向上に向けて、今までの取り組みの継続とともに、新テストで要求される能力への対応を行う。

<国際交流>

- ・台湾の姉妹校である中山女子高級中学の受け入れ。

- ・長期留学生（在籍中・帰国）6名、短期在籍2名が、1・2年生の国際文化科クラスで受け入れ。
- ・海外研修について、オーストラリア・アメリカ（シアトル）は実施予定。韓国研修・ニューヨーク短期留学は中止。来年度ニューヨークの相手校が来る予定も中止（アメリカがレベル2）。来年度の留学生も来ていない。
- ・大阪ユネスコスクールとして、教育センターでネットワークを代表して報告会で発表。

(3) 総合科学科及びSSHの取り組み

- ・「課題研究の質の向上」に取り組む。
- ・「英語力の育成」に取り組む。台湾師範大学と連絡が取れ、フィールドワーク型研究活動に参加したい。
- ・「外部連携の強化」に取り組む。
- ・上記項目の評価（生徒自己評価・外部評価・OB追跡調査）の成果。
17項目は＜好奇心＞＜探求力＞＜貢献心＞＜共有力＞に4分割される。その中でも、＜探求力＞の項目が伸びた。

(4) 進路指導状況

- ・センター受験者数は194名（昨年度から22名減）。私学で決めようという生徒が多かった。しかし、センター受験者は目的をもって受験したものが多く、全科目全国平均を上回っており、理系の平均点は高かった。
- ・課題は進路指導に割く時間の確保。行事が多く、進路HRの時間を取りにくい現状がある。他の取り組みとの調整を図り、改善に取り組んでいく。

(5) 生活指導について

- ・延べ遅刻総数年間2000未満の目標は達成できなかった（2/13 2040 昨年の同時期より477減）。3年生の1月期の遅刻回数が激増。特にセンター試験明け私大入試開始時期。この時期の生徒が目を向けられるような授業の内容を考える必要があるのでは。
- ・今年度は盗難等の報告はないが、貴重品管理ができない生徒が増加していると思われる。
- ・今年度はSNSがらみの指導はなかった。

(6) 住吉改革委員会（先生方の任意・自主的な活動）

- ・学習指導PT：研究授業12回、研究協議5回を行い互いに切磋琢磨し、授業力向上をめざした。阪南中学校との相互授業観察が3年経過。来年度に向けて新たな工夫を考えたい。
- ・ICT推進PT：100周年記念の先行事業として電子黒板機能付きPJ設置。使い方の研究会や講師（住吉OB 大阪市大名誉教授）を招いての勉強会を実施。

- ・行事検討 PT：行事の精選として体験入学の廃止を検討中。新入生歓迎会の時間短縮。海外研修、体育祭の実施時期等、学校説明会のあり方を来年度検討。
- ・広報 PT：「住吉高校の『ゆるキャラ』」をふくめ、イメージシンボルの検討。

(7)令和 2 年度学校経営計画について

- ・遅刻指導については、H29 2827、H30 2517、R1 2040 と減っているが、休む生徒が多いのも課題。特に 3 年生が多い。
- ・TOEIC 平均スコア 500 点以上・GTEC 平均スコア 520 点以上・英検合格率 2 級 45%、準 2 級 70%。
- ・アジアフィールドスタディについては、安全面等を考え行き先の変更を検討しなければならない。
- ・授業アンケート「生徒意識 知識や技能が身についた」3.3 以上。（今年度 1 回目 3.31 2 回目 3.31 でキープした。）
- ・国公立大学合格者 70 名以上。
- ・今年出来ていないものをそのまま残している。できているものは高いところで維持していく。

4. 質疑・協議 （Q 質問 → 回答 B 意見）

Q 英語合宿は中止なのか延期なのか。

→英語合宿は生徒約 160 名、NET30 名弱、本校付き添い教諭 10 名の約 200 名。
教育活動中止項目すべての条件があてはまるので中止になる。
年度が改まってから行うにしても、他校で授業のないときに来てもらっている NET は呼べないので同じ形ではできない。検討中。

Q 住高ネットワークの英文添削はどのような形で行われているのか。

→科学発表会で用いる英文を OB・OG のボランティア（アメリカ在住）にメールで添削していただいている。スピーキングは外国語科に負担していただいている。

Q ユネスコスクールでの発表は素晴らしいことだが、どのように選ばれたのか。

→住吉高校が発表できる体制を整えた、コアな活動をしている学校であることが大きい。

Q SSH 関連の生徒の英文添削について、理科の文献・用語を訳することは、専門でない者にとっては困難。

→理科の専門の先生に依頼するしかない。研究テーマが決まって、調べるときに、同じ研究をしている大学の先生を探して連絡を取ってみる。高大連携の意識が浸透しつつあるので、大学の先生が高校生のために動いてくれる可能性もある。

→外国語科の先生に依存しないように、科学英語の確立を考えたい。理科の経験や英語論文に詳しい常駐してくれる英語の先生がほしい。

→専門性は細分化されており、ユニバーサルで指導できる人を見つけることは難しい。文章そのものをしっかり指導できる人に常駐してもらい、生徒と関わってもらうのが良い。

高校生に論文を読ませることは難しいが、やはり、英語論文をたくさん読ませる。

フレーズを盗む、単語の前後を見るなど、論文を模倣しながら習得させていく。

Q 先行研究を調べたいが、無料で調べられないことが多い。

→論文をみるには一般に出回っているオープンなものを探すしかない。主要な論文は大学でも購入する。

Q SSH 関連で掲載されている 17 項目の自己評価について

→4 段階評価。100 項目くらいの質問項目を作っていきたい。

→回答しやすいシンプルな質問のほうが良いのでは。

Q 21 年度入試はリスニングが多くなる。特色選抜も広がる。

→英語の外部資格導入がなくなったのは不利。

Q 大学が調査書をどう評価してくれるのか、情報がほしい。

→面接でもしっかり見ている。

→高校にも同様のアドミッションポリシーがある。

→現高 1 は人口が減り、国公立大学に入りやすい。今年からも大分減る。3 年間で 1 万人は減る。地方の国公立大学等最後まで粘ればチャンスがある。関東ではオリンピックの年に浪人したくないなど安全志向。

Q 新カリのキーワードは「探求」。中学校ではどうか。

→授業の形態の中で過程を大切にすることが「探求」であると考えてるので、中学校でも取り組んでいる。中学校では生徒が生徒に教える、教えられるという過程で非常に有効。しかし、そればかりだと教科書が終われないというジレンマがある。また、若い先生は授業スタイルを変えやすいが、年配の先生はなかなかできない。一人 1 台のタブレットが普及されてはいるが、ネット環境が整っておらず活用するのに問題。後追い後追いの状況。

5. 校長謝辞 委員の先生方には引き続きⅡ期目もお願いしたい。

6. 今後の予定

第 1 回は 6 月 第 2 回は 10 月 第 3 回は 2 月